

共産ロレタリア通信

NO.19

1967
8/10

共産主義者同盟
書記局

目次

一 前進する三菱三原の斗い
二 斗争支援カンパについて

読者のコメントを待たす。

送付結果 (当) 夕保 二〇二八

渚 高脚 一六一五

無効 一四七 白果 一三五

計 三九三五

一、前進する三菱三原の斗い

三菱独占資本の工場、同盟三菱の拠点京都府三原製鉄所(組合員四二〇〇名)において、二〇年近くにわたる御用支配に巨大な「反乱」が開始されている。

そして遂に、八月八日の専任執行委員選挙に現役幹部を破って、「良心派の人」が当選し、会社以上に愛護な執行部の一員に、橋本隆を築いた。

長崎造船分社を始めとする半導体三菱支部の大半をオニ組合に組織し、横浜造船分社を脱退させ、長期にわたって御用支配をうちたてた逆を繰り返して会社をうひに同盟系幹部に

斗いの開始は、去る七月一日、野口君が札幌製鉄所への配転命令を申しわたされたことなら具体的に始められた。

野口君は、慶大後業科反対斗争時、法政部自治会委員長として活躍し、その恒田和四〇年三菱重工業に入社し三原製鉄所専任課に採用された。直ちに組合の青楓活動に参加、朝山会の子ニューター舞を行ったり、一五〇名下のぼる水島町初里への配転に反対して斗つ中で、組合の民主化を計る必要を感じ、「重工業化する公」を作って中心的活動してきた。

会社は、これらの活動を弾圧するため、四一年八月一日専

選挙区に属する者の組合と、そのような「個人」の人
を擁護したということは、初め之のことであり、巨大な競
選をばらばらしている。そして、現地、特に参加したわれら
は、小型の「選挙時」の派手な感じに似たような感じがしてなら
ない。なほばらばら、

(1) 衆議院と組合幹部に押さへられ、真上げのスト
から全然やらないような正統な状況にあり、たこと
のそれが配転問題が起きてから一ヶ月、組合にある程度
公然となつてから半月弱で、一様に内閣が変つたこ
と

(2) 組合員一人一人の利益に關する真上げと外という問題で
はなく、一人の配転問題から度々不満が積り積つ
て、始めは流動的状況から、一極に流動的状況に爆発
していったこと。

(4) として、君などが組合運動などは知らない、単なる同
期生の友好グループが、一、二の指導者のものに、
実質的な臨時斗争委員会に転化し、巨大大口の私制と
併せて組んでいる。

わが同盟は、当初よりオルケスを派遣し、また大半の同
盟資金をまかない、この支援体制に全力を捧げているが、
決定的に同盟資金が不足している。

二、支援カンパについて

全労切者同盟は連帯の斗争資金として、一人当五〇〇
円のカンパを八月一杯に要請したい。

斗争情報、資料がツキ／＼に出されるのでこれを読み、
活用し、同盟シンパ層からもカンパを集め全同盟員が必
ず一人五〇〇円のカンパを遂行するようにして貰いたい。
カンパは出来るだけ早く、どんなに遅くとも八月中には完
納するようお願いしたい。

※ 東京、及び、北海道、静岡、愛知の労切首領者諸君の
カンパは東京中央書局に集中のこと。

この年表支展を続けようとする
的方針を打出し、打ち付けさせたこと
的これらのことはプロレタリアートに対する
衆運動のダイナミズム、単なる選挙区
指導性

このように二の斗いの中からの救済を
要性を痛感する。

現在斗いは二次の勝利をみたと言え、野口君は
「最後通告」は近々に出来るであろう。また同盟幹
部は急ぎ支部大会を召集している。場合によつては何ら

かの「統制処分」を出してくる可能性もないと言えな
い。現任、代議員選挙選(一五右に一名の代議員)は開始さ
れている。われわれは、これらに對し、最終まで斗い抜き勝利
を闘い続けなければならない。運動の最場の中で、私制を
打倒しなければならぬ。

現地では内閣の守る公、地域の守る公、地々野等のの支援
体制を組んでいる。